

「期待以上の 5 日間」

東京医科歯科大学医学部 3 年 藤原 熙基
(配属先：組織形成ダイナミクス研究チーム)

私がインターンシップに参加させていただいた理由は大きく 2 つありました。1 つ目は研究者の方々の研究に対する考え方を学ぶこと、2 つ目は同世代の研究者を目指す人々の話を聞くことでした。5 日間は短く、あっという間に過ぎてしまいましたが、上の 2 つの目的は十二分に達成できました。それ以外にも非常に多くのことを学び取れ、良い意味で期待を裏切られ続けた素晴らしいインターンシップでした。

配属研究室だけではなく講義やラボビジットでも数多くの研究者の方々の話を伺うことができましたが、私の印象に最も強く残ったのは研究に対して楽しみながら向かう姿勢でした。学生という一種保護された身分である私が研究を行うことと、職業として研究を行うことはその責任からも似て非なるものであると思います。結果を出さなければならない環境の中でも楽しめること、それには研究テーマの設定が非常に大切であることを感じさせられました。ともすれば現在トレンドとなっている分野の中からテーマを探しがちになってしまいがちですが、それに流されることなく真に自分が探究したい事柄を見つけるためにはしっかりしたバックグラウンドが必須になります。早い時期にこのことをはっきりと認識できたことは、進路選択にあたって非常にありがたいことだと思います。

他のインターンシップ生からも多くの刺激を得られました。大学で医学を学んでいることによって、私の考え方も知らず知らずのうちに医学が中心になってしまっていることを感じられました。一つの事柄に対しても人によってアプローチの仕方は違っていることは考えてみれば当然のことではありますが、それに気づくことができたのは背景の違う人々と真剣に議論ができるこのような機会があってこそのことだと思います。「視野を広くもつことが大切」とはよく言われることではありますが、質疑応答の際の活発なやり取りなどからもその本質をおぼろげながらも掴めたような気がします。

インターンシップで過ごした 5 日間は私の進路選択にあたって大きなターニングポイントとなったことは間違いありません。ここで得られた新たな視野を忘れることなく、今のうちにしっかりしたバックグラウンドを身に付けて将来は研究に携わっていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました組織形成ダイナミクス研究チームの皆様と理化学研究所 CDB インターンシップ事務局の方々、そして楽しい時間を過ごさせていただいた 2013 年度インターンシップ生の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



研究発表会にて。藤原熙基さん（左）